



# 性犯罪再犯防止指導

地域社会とともに  
開かれた矯正へ

## ■ 指導の目標

不同意わいせつ、不同意性交等その他これに類する犯罪又は自己の性的好奇心を満たす目的をもって人の生命若しくは身体を害する犯罪につながる自己の問題性を認識させ、その改善を図るとともに、再犯しないための具体的な方法を習得させる。

- 対象者 性犯罪の要因となる認知の偏り、自己統制力の不足等がある者
- 指導者 刑事施設の職員（法務教官、法務技官、刑務官）、処遇カウンセラー（性犯担当。認知行動療法等の技法に通じた臨床心理士等）
- 指導方法 グループワーク及び個別に取り組む課題を中心とし、必要に応じカウンセリングその他の個別対応を行う。
- 実施頻度等 1 単元 100 分、週 1 回又は 2 回、標準実施期間： 4～9 か月※

※ 再犯リスク、問題性の程度、プログラムとの適合性等に応じて、高密度（9か月）・中密度（7か月）・低密度（4か月）のいずれかのプログラムを実施。ただし、知的能力に制約がある者には調整プログラム（11か月）、刑期が短い者等には集中プログラム（4か月）を実施。

## カリキュラム

項目	方法	指導内容	高密度	中密度	低密度
オリエンテーション	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導の構造、実施目的について理解させる。</li> <li>・性犯罪につながる問題性を助長するおそれがある行動について説明し、自己規制するよう方向付ける。</li> <li>・対象者の不安の軽減を図る。</li> </ul>			
準備プログラム	グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講の心構えを養い、参加の動機付けを高めさせる。</li> </ul>	必修	必修	—
本科					
第1科 自己統制	グループワーク 個別課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事件につながった要因について幅広く検討し、特定させる。</li> <li>・事件につながった要因が再発することを防ぐための再発防止計画（セルフ・マネージメント・プラン）を作成させる。</li> <li>・今後達成したい目標、自分の強み等を踏まえ、効果的な介入に必要なスキルを身に付けさせる。</li> </ul>	必修	必修	必修 (凝縮版)
第2科 認知のくせと 新たな認知	グループワーク 個別課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知が感情、行動及び身体に与える影響について理解させる。</li> <li>・再犯につながりやすい認知に代わり、新たな思考スタイルを身に付けさせ、再発防止計画（セルフ・マネージメント・プラン）に組み込ませる。</li> </ul>	必修	選択	—
第3科 他者と社会との 関わり	グループワーク 個別課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知が人間関係に与える影響について理解させ、適切な自己主張の方法を身に付けさせる。</li> <li>・出所後の人間関係について検討し、再発防止計画（セルフ・マネージメント・プラン）に組み込ませる。</li> </ul>	必修	選択	—
第4科 感情統制	グループワーク 個別課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感情が認知、行動、身体及び他者との関係に与える影響について、理解させる。</li> <li>・感情統制の機制を理解させ、必要なスキルを身に付けさせる。</li> </ul>	必修	選択	—
第5科 被害者等理解	グループワーク 個別課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な視点から事件を振り返らせ、被害の影響を学ばせる。</li> <li>・行動選択の責任について考えさせる。</li> </ul>	必修	選択	—
メンテナンス	個別指導 グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識やスキルを復習させ、再犯しない生活を続ける決意を再確認させる。</li> <li>・作成した再発防止計画（セルフ・マネージメント・プラン）の見直しをさせる。</li> <li>・社会内処遇への円滑な導入を図る。</li> </ul>			